

生成AIの利用状況に関する全庁アンケート結果

調査目的：生成AIの利用拡大の取組の参考とするため

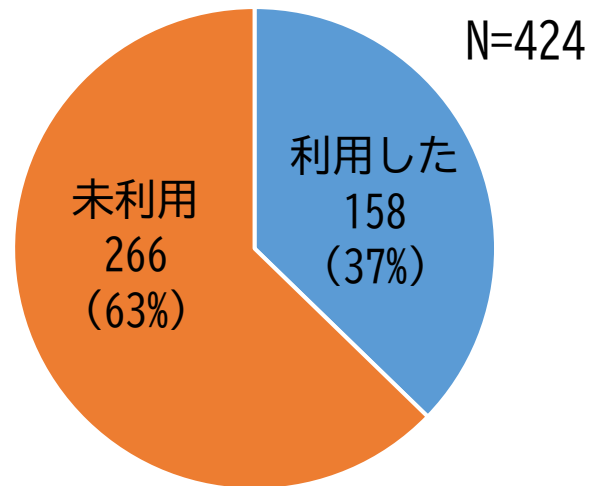
調査対象：全職員（警察職員及び会計年度任用職員は除く）

調査方法：庁内HPでアンケート実施

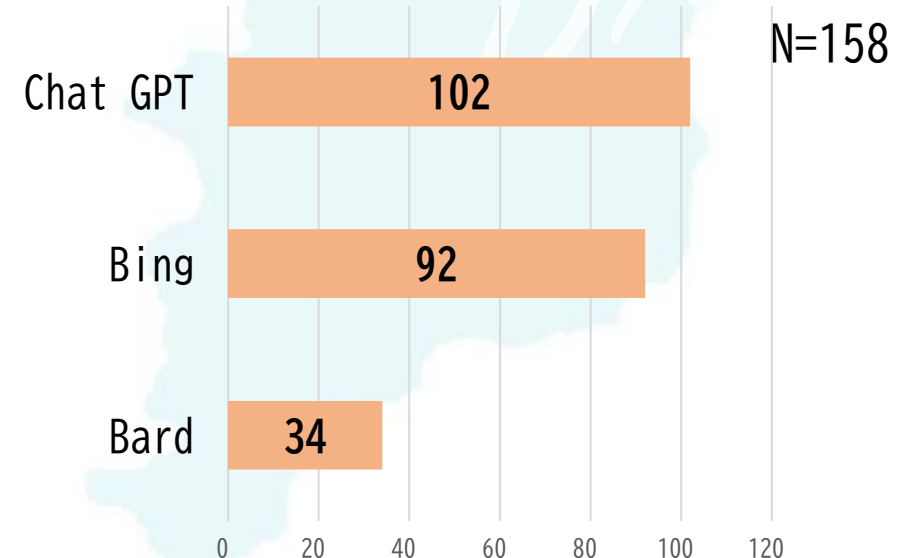
実施期間：令和5年8月9日～8月31日

回答数：424

Q. 試行期間中、生成AIを業務で利用しましたか？



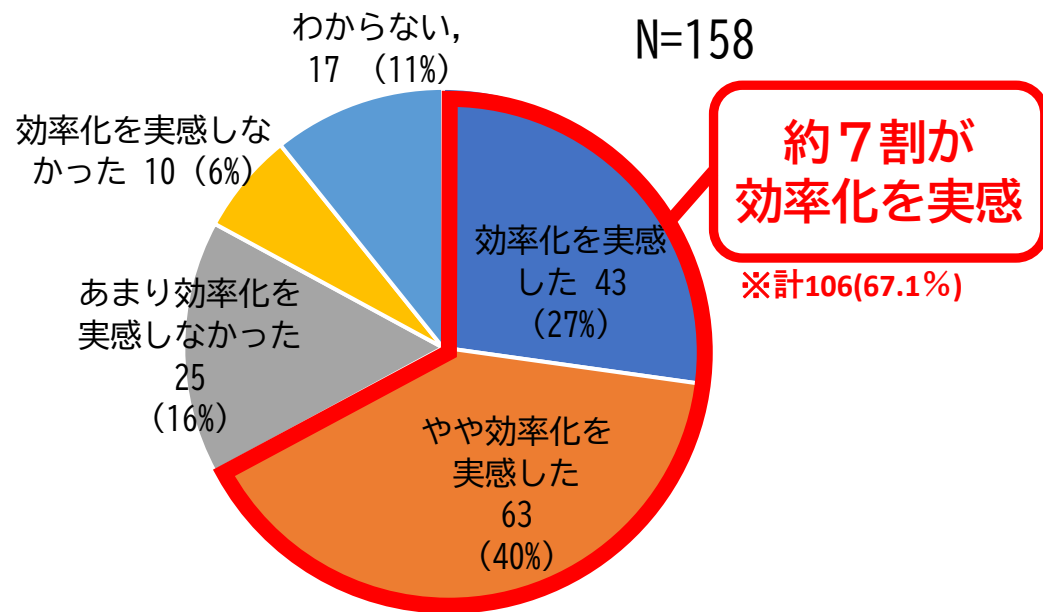
Q. 試行期間中に業務で利用した生成AIのサービス
(複数回答) ※利用した職員(158名)にのみ質問



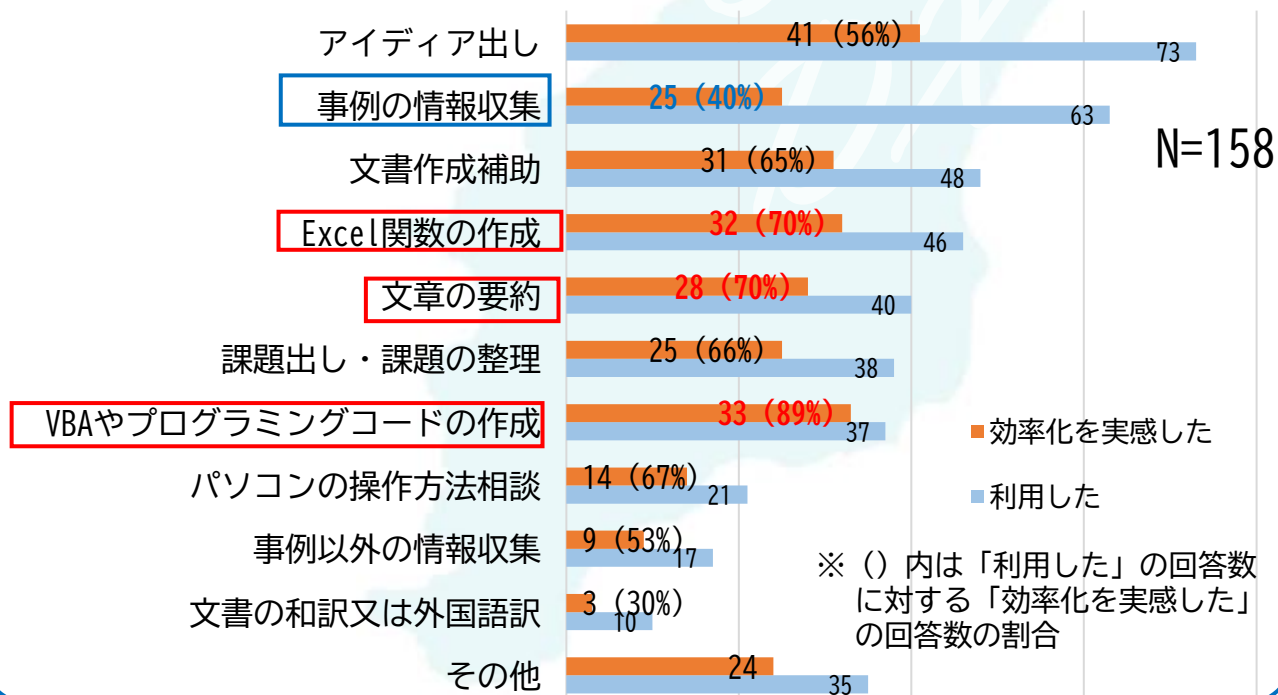
業務効率化の実感と活用事例の状況

- 利用者の約7割は業務効率化を実感した
- 利用された業務に対し、業務効率化の実感率が高かった業務は VBAやプログラミングコードの作成(約9割)、Excel関数の作成(約7割)、文章の要約(約7割)であった
- 一方、業務効率化の実感率が低調だった業務は、事例の情報収集(約4割)であった

Q. 生成AIの利用により、業務が効率化された実感はありましたか？※利用した職員(158名)のみに質問



○「利用業務」と「利用で効率化を実感した業務」の比較
※利用した職員(158名)のみに質問(複数回答)



利用者が効率化を実感できなかった要因 及び 未利用者が使わなかった理由

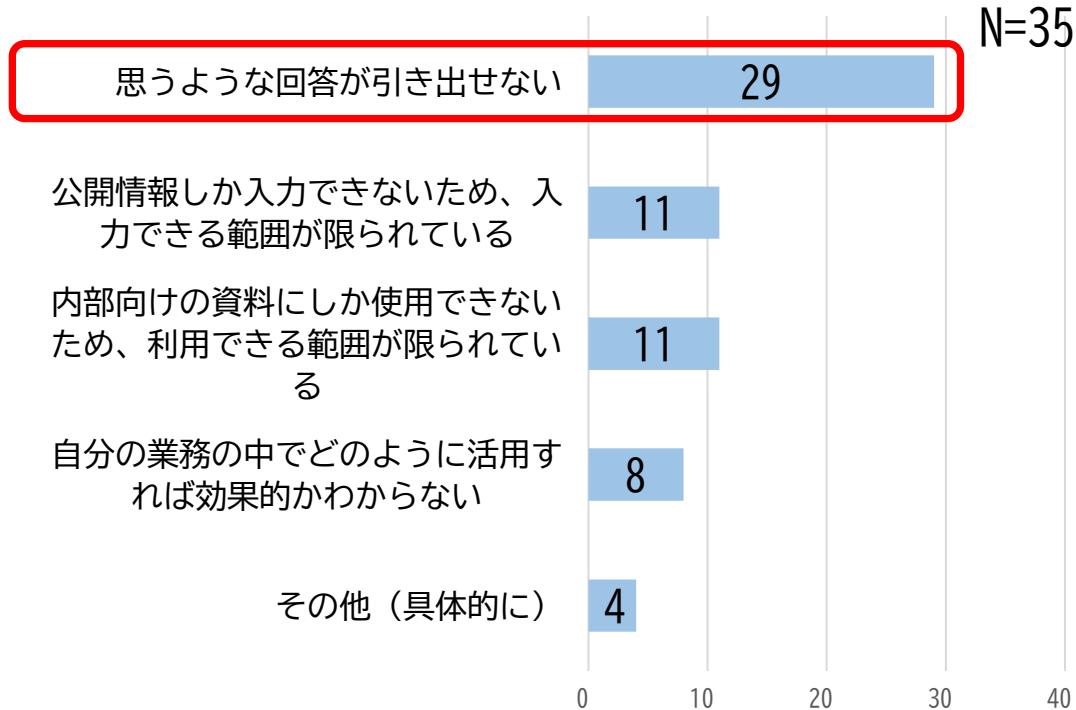
○利用者が業務効率化を実感できなかった要因は「思うような回答が引き出せない」が最も多かった

○未利用者が利用しなかった理由は「自分の業務には活用できないと感じた」が最も多かった

○効率化をあまり実感できなかった要因（複数回答）

※利用した職員の内、業務効率化について、「あまり効率化を実感しなかった」「効率化を実感しなかった」と答えた職員（35名）のみに質問

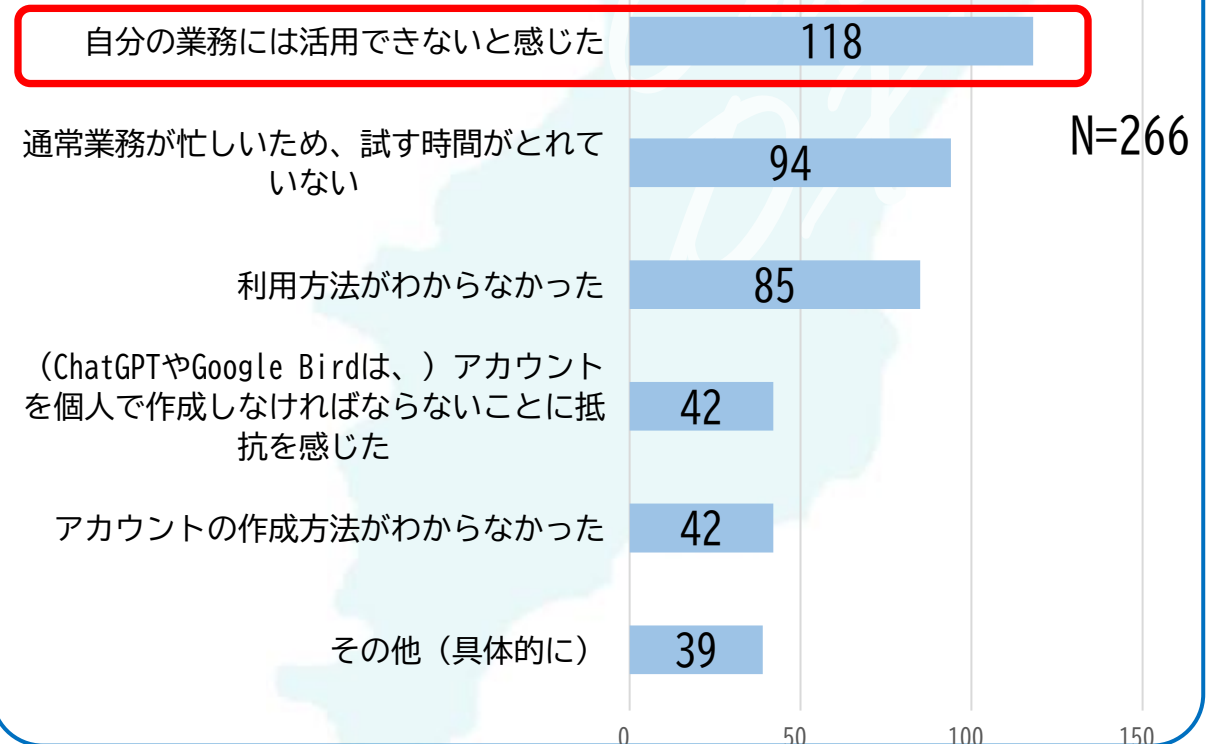
N=35



○生成AI を全く利用しなかった理由（複数回答）

※利用しなかった職員（266名）のみに質問

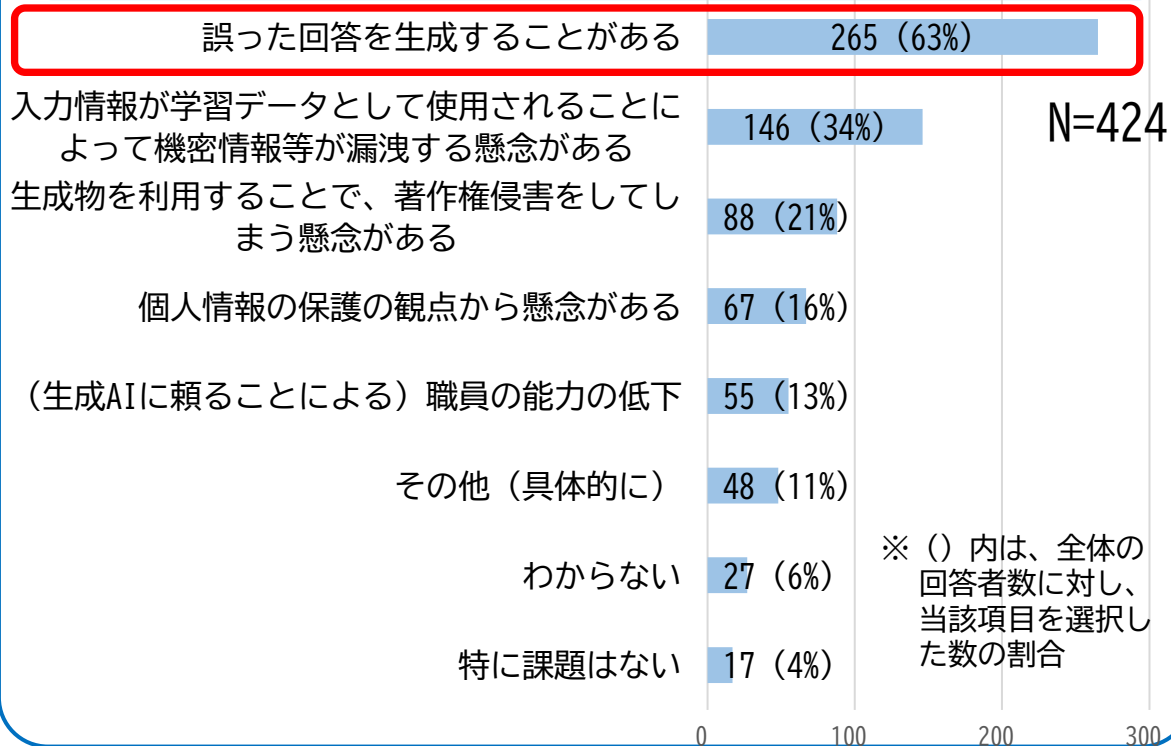
N=266



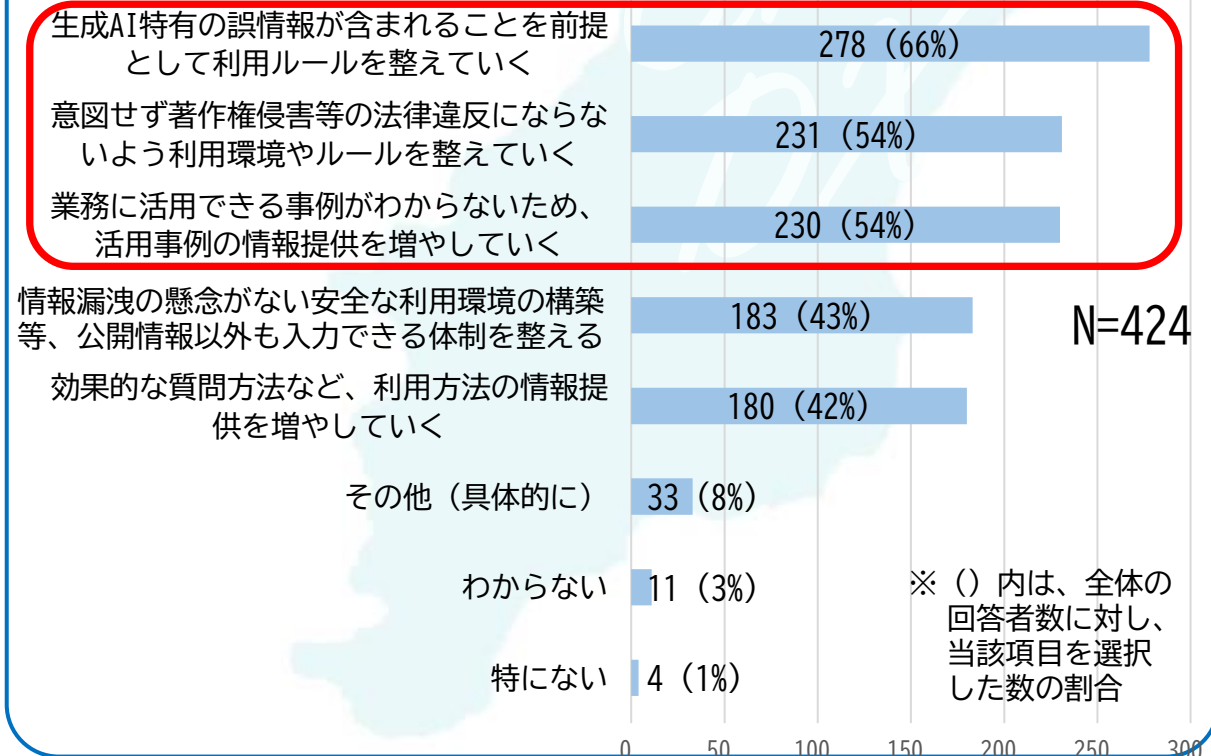
業務利用にあたっての課題

- 生成AIの業務利用における課題として最も多かったのは「誤った回答を生成することがある」
- 今後利用範囲を拡大するために必要なこととして最も多かったのは「生成AI特有の誤情報が含まれていることを前提として利用ルールを整えていくこと」であり、回答者の6割以上が必要性を感じている

○生成AIを実際に業務に利用する場合、特に課題として感じているもの（複数回答）※全員（424名）に質問



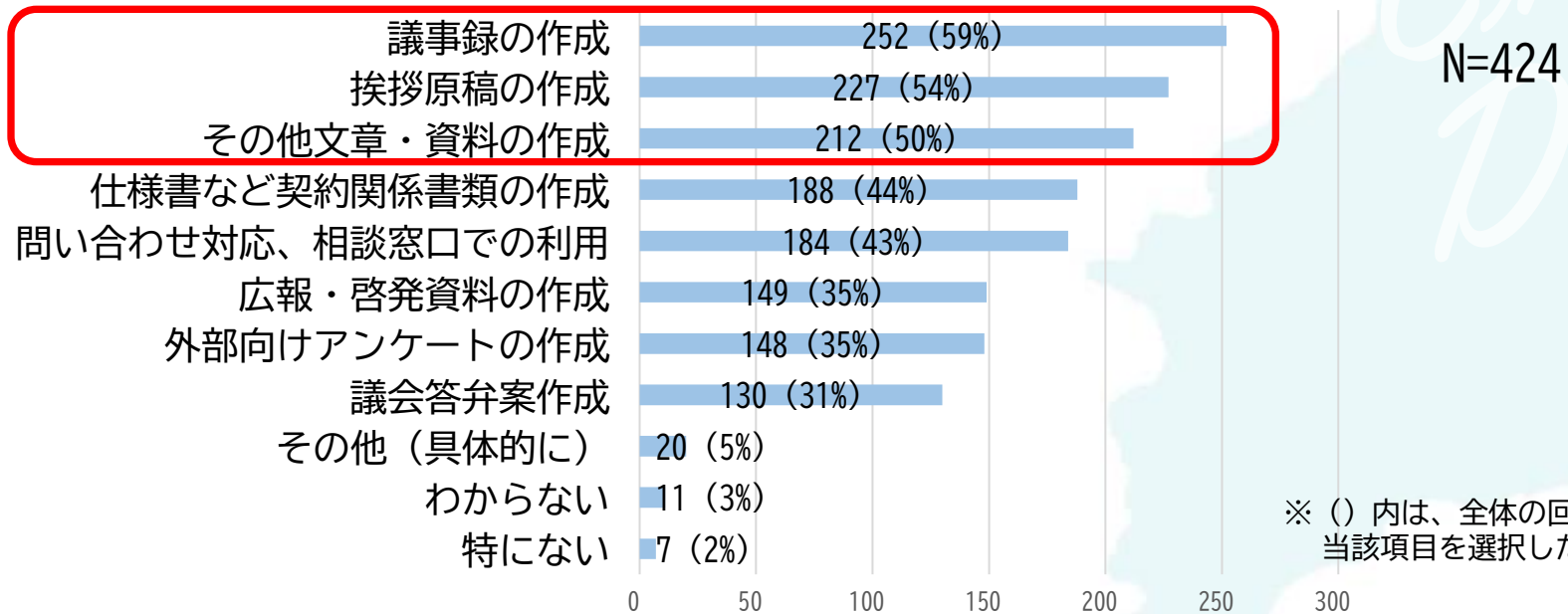
○生成AIの業務利用の範囲を拡大していくに当たり、どのようなことが必要と考えるか（複数回答）※全員（424名）に質問



今後、利用範囲が拡大した際に利用したい業務

○今後、利用範囲が拡大した場合には、様々な業務で生成AIを利用したいとの意見があり、中でも回答が多かったのは、「議事録の作成」「挨拶原稿の作成」「その他文章・資料の作成」

○今後、利用の範囲を拡大した場合、生成AIの技術を利用したい業務を選択してください。
(複数回答) ※全員(424名)に質問



※ () 内は、全体の回答者数に対し、当該項目を選択した数の割合

今後、検討が必要なシステムやサービス

- 生成AIを活用した業務の効率化に効果的なシステムやサービスとして最も多かったのは、「県の規則や情報が予め学習されたシステム」であり、回答者の約7割が選択
- Officeソフトと連携したシステムや、機密情報を入力しても学習されないシステム、個人のアカウント登録が不要なシステムについても、効率化に効果的と感じる声が多い

○今後、生成AIを利用した業務の効率化を進めるには、どのようなシステムやサービスの導入が効果的と感じますか？

(複数回答) ※全員(424名)に質問

県の規則や情報が予め学習されており、県が必要としているものに
近い回答が生成されるシステム

officeソフト (Word、Excel等) と連携し、資料作成や分析の提案
が受けられるシステム

機密情報を入力しても、入力情報が学習データとして使用されない
システム

利用に当たり、個人でのアカウント登録が不要で、簡単に利用できる
システム

その他 (具体的に) 32 (8%)

わからない 14 (3%)

特にない 5 (1%)

